

安全協議会活動について

発注者	新庄河川事務所	
施工者	銅山川・角川流域安全対策協議会	
発表者	銅山川流域赤砂第八砂防えん堤工事 角川流域鍋嶽沢砂防えん堤工事用道路工事 ○銅山川流域横道沢第五砂防えん堤改築工事 豊牧地すべり豊牧地区対策工工事 角川・銅山川砂防管内施設整備工事 銅山川流域赤砂川取水設備工事 銅山川流域赤砂川取水設備電気工事 銅山川流域赤砂川取水設備機械工事 角川・銅山川砂防施設整備工事	藤井 裕二 山科 政幸 伊藤 誠一 大場 正志 三上 勇樹 渡邊 徹 鈴木 勝弘 高橋 倫明 五十嵐正博

1. 協議会の目的

協議会は、銅山川・角川流域における砂防事業・地すべり対策事業の工事の実施にあたり、土砂災害（土石流・地すべり・斜面崩壊）等による危険防止のために講ずるべき安全対策に対して、または連携した監視・警報・避難体制等の構築について協議し、適切な安全対策を検討・確立することや、相互の連絡調整・情報交換を行い、円滑な工事の推進と土砂災害を除いたその他事故や災害についてもより一層の安全の確保を図っていくことを目的としています。

また、協議会として地域とのコミュニケーションを図り、事業や協議会員のイメージアップや地域貢献を行うことも協議会活動の目的としています。

2. 協議会活動

①協議会内での安全パトロール

7月16日に第1回の協議会を開催し、活動内容を討議しました。その中で、協議会活動で、互いの安全管理がどの様に行われているのかを情報交換との形で、安全パトロールを実施したら良いのでは？との発議が出ました。

新庄河川事務所管内では、3年間無事故が続いている、今後も無事故を継続するにあたり協議会内での安全パトロールの実施が決定しました。

協議会安全パトロール

第1回	9月15日	2 現場
工事名	角川流域鍋嶽沢砂防えん堤工事用道路工事 銅山川流域横道沢第五砂防えん堤改築工事	
第2回	11月24日	1 現場
工事名	銅山川流域赤砂川取水設備工事	

普段の安全巡視活動で、各工事点検を実施してきたと思いますが、この2回のパトロールを受け、第三者の目で、パトロールを実施し、巡視点検で見逃していた危険箇所を見つけ

ることができ、各現場の事故防止に繋がったと思います。

第1回 安全パトロール実施状況



第2回 安全パトロール実施状況



【改善事項の例】

- ◎作業床の幅不足 (40 cm以上)



是正前

是正後

②ほたる火コンサートへの協力（地域貢献）

毎年8月の初旬に、四ヶ村棚田ほたる火コンサートが行われ、今年は、8月7日に実施されました。コンサートの開催に当り実行委員会から、来場者の安全確保の為の照明設備の設置やカラーコーンの設置の協力要請があり、協議会として参加を快く了承しました。

実行委員会と協議会で、打合せを実施し、会場周辺に設置している工事用の看板を棚田コンサートの案内看板に張替えることになりました。

ほたる火コンサート当日は、照明設備やカラーコーンの設置により、来場者の安全が確

保され、無事コンサートを終えたことだと思います。



照明設備の設置



カラーコーンの設置



看板の張替え



ほたる火コンサート

③クリスマスイルミネーション（イメージアップ）

第2回目の安全パトロール終了後、安全協議会を実施し今後の活動について、討議した結果、事業のイメージアップとして、沼の台保育所にてクリスマスイルミネーションのイベントを実施しては？との意見をもらい実施することになりました。沼の台保育所の先生と打合せを行った結果、12月14日にイルミネーションの準備、12月16日に点灯式の実施、12月16日～25日の期間イルミネーションの点灯が決定しました。12月14日にイルミネーションの準備を終えましたが、翌日の15日に80cm以上の降雪の影響により、イルミネーションの一部が壊れてしまいました。点灯式当日、協議会メンバーで補修作業を行い点灯式にはなんとか間に合いました。

点灯式は無事終了し、沼の台保育所の先生から「とても綺麗です。」「また来年も実施してください。」との感謝の言葉を頂きました。



イルミネーションの準備



設置完了



点灯式



イルミネーション



沼の台保育所と協議会との記念撮影

3. 終わりに

銅山川・角川安全対策協議会では、安全パトロール・ほたる火コンサートの協力・クリスマスイルミネーションの活動を実施してきました。それぞれの活動を振り返り、工事相互の安全管理のレベルアップ、地域貢献、事業のイメージアップができ、協議会活動は充実していましたと思います。

今後の安全協議会の課題として、合同の安全教育・訓練や、避難訓練等の実施、作業中止基準を共有化することにより、流域で作業に従事する作業員に対しての安全意識の高揚を図ることも大切だと私自身感じ、次年度以降の協議会の討議に活用されれば幸いです。

現在各流域の工事は、竣工に向け工事を進めていますが、この論文の発表の際には、協議会員の無事故・無災害で向かえられる様祈願し、結びの言葉とします。